



名演技で笑わせる。息が合う大人と子ども



獵師の村允（そんぞう）とおしどりのたえ。2人の愛の行方が涙誘う



魅了するダンス。体いっぱい表現



舞台の上で自分を表現。生きいきとした笑顔で本番を楽しむ



こいずみ・やくも

1850-1904年。随筆家。リック・ラフカディオ・ハーン。島根県。小泉八雲と名乗る。『ついでに』など日本文化を研究し、ての姿を写真提供 小泉 凡さん

今年没後100年を迎えた明治の文豪として知られる小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）。数多く出版された作品の中で骨董「幽霊滝（龍王滝）」と怪談「をしどり（オシドリ）」は、小泉八雲（以下ハーン）と日野町が深く関係していると言えます。

ハーンの文学分野は、翻訳文学、ルポルタージュ紀行文学（探訪記事）、再話文学（物語文学）などで「幽霊滝」「をしどり」を始め晩年の作品は、再話文学（地方に伝わる民話に、文学としての魂を吹き込み語り直す）にあたります。ハーンは、怪談話など超自然的（神秘的）なものには、

常に真理があり、人が生きていくために欠かせない好奇心や想像力を与えてくれるーと信じていました。ハーンの世界には、必ずと言って良いほど人間界と超自然界とが出てきます。「をしどり」「幽霊滝」もそうです。これらの怪談話には「人間の世界は人間だけで完結しているのではなく、自然や超自然的なものと同じ輪の中にあり、共生している」ということを伝えたかったのではないのでしょうか。超自然界は、自然を恐れ敬う気持ちを教えてくれ、人間に生きる目的や勇気を与えてくれる。「自然と共生できない民族は滅びる」とも言っているので「共生」ということをとても大切にしていました。怪談などの多くは、妻の小泉セツから聞いた話を元に書いたと言われ、人による語り（口承文化）の良さを大切にしています。民話などの語りは想像力の根源です。そのことは今の時代にも言えます。耳で聞くということは記憶力や想像力を養います。また、親子のコミュニケーションにもつながっていくと思います。ハーンは明治25年、隠岐旅行の後、倉敷を通り熊本に帰る途中で黒坂村（現・黒坂）に立ち寄ったという説があります。



こいずみ・ぼん 小泉八雲のひ孫。島根県立島根女子短期大学助教授。小泉八雲記念館顧問。著書「民俗学者・小泉八雲」(1995) 恒文社など

龍王滝

高さ70mから流れ落ちる龍王滝（滝山神社境内隣「日野町中宮」）
2歳の幼児を連れて参ると首がなくなると小泉八雲が小説「骨董」の中で幽霊滝として紹介

そしてこれから



オシドリグループ事務局
森田順子 さん（根雨）



日野町長
梅林 豊

芽を出した人のきずな

オシドリ観察は、まちを代表する観光スポット。その人気と存在は、まちの代名詞とも言え、地域に与える影響は多大了。グループの皆様にはその活動に心から敬意と感謝を申し上げます。

まちとしてもこの活動を支援し「愛と元気なまちづくり」のシンボルとして積極的に活用を図り、地域の活性化に結

びつけていきたいと思えます。ドングリは小さいですが、長い年月を経て巨木となり、たくさんの実をつけます。オシドリグループのまいた種が10年という自主的な活動を経て、大きな地域の輪となり、人のきずな」という実をつけました。この実がまち全体に広がり、いたるところで芽を出すことを期待しています。

人と人を結ぶオシドリ

感動とやすらぎを与えてくれるオシドリ。その姿を多くの人に見てほしい。その思いで地道に活動してきたグループも10年が過ぎました。オシドリを通じて広がる交流と支援の輪。皆さんに支えられながら続けてこれました。日ごろよりご理解とご協力をいただき本当にありがとうございます。特に観察小屋に一番近い稲田さんご夫婦に

は助けられました。人と人を結んでくれるオシドリを「天使」だと思っています。これからも夢である「鳥と人が共存していける環境」を形にしていくため、皆さんといっしょに環境保護について考え、行動していきたいと思えます。それにはまず、オシドリを見ていただくのが一番です。観察小屋でお会いしましょう。オシドリは元気です。

それぞれの思い *Interview*

ひとりが始めたオシドリ保護活動。たくさんのオシドリたちが飛来するようになっただけではありません。支援や交流の輪が広がり、まちの活性化や人づくりにも大きな影響を与えています。



日野町ボランティアセンター
山田利美
さん（貝原）



(株)まちづくり日野代表取締役
窪田憲二
さん（根雨）

地域活性化につながる

オシドリ観察は、全国に情報発信できる観光資源のひとつ。集客効果はすばらしく、まちにとって欠かすことのできない存在です。

全国各地から多くの人が訪れます。ほかの観光資源と結びつけることができれば、地域はもっと活性化すると思います。

来年3月には、前回に引き続く「オシドリマラソン」をお

しどりヘルシーウォーク」を企画。宿場まちの風情が残る根雨のまち並みとオシドリを結びつけ、地域の良さを紹介していきたいと考えています。オシドリ飛来もそうですが、何事も定着するには長い年月と情熱を持った人が必要です。まちづくりも長期的視野を持ち、将来を考えながら進めていかなければなりません。

自分にできることから

オシドリグループの地道な取り組みは、人と人とを結んで大きな輪になりました。

今、町内ボランティアの輪は、それぞれの地域や団体の中で広がりを見せています。

ボランティアとは特別なことをすることではありません。例えば、出会った観光客にまちの名所を教えてあげる。簡単な説明でいいと思うんで

す。その輪が広がり、地域全体が案内人になれば、まちも活気づく。というふうには、みんなの力が集まれば大きな力になっていくと思います。「自分にできることはないか」を考えて、それを実際に行動に移してみましよう。ひとりでも多くのボランティアが育ってくれることを願っています。



取材を終えて

オシドリ飛来シーズンの前、河川清掃の協力を呼びかけると多くの人が集まりました。この写真は、ただの記念撮影ではなく「広がる地域の輪」を意味しています。オシドリグループ、支援する地域の人、全国からドングリを送る人、みんな「自分たちにできることなら」との思いで行動しています。オシドリグループの行政に頼らない自主的な活動が人々の心を動かしました。「自分には何ができるのだろうかー」考えてみたい。多くの人のおかげがあって、今年もオシドリが飛来します。

取材 企画振興課広報担当 音田雄一郎

(資料・写真提供 = オシドリグループ、松本利秋さん、稲田匡宏さん)

特集 **鴛鴦** オシドリ
おわり

広がる地域の輪



送ってください。



オシドリのえさ送り先（ドングリ、くず米など）

- 〒 689-4503 鳥取県日野郡日野町根雨 390
オシドリグループ事務局 森田順子（電話 0859-72-0271）
- 〒 689-4503 鳥取県日野郡日野町根雨 101
日野町役場 企画振興課（電話 0859-72-0332）